

1. 南大沢スマートシティ事業概要

■ 目的

- 南大沢駅周辺地区は、にぎわいのある拠点が形成され、学術研究とまちづくりが連携するエリアである一方、丘陵地のため、高齢者等の居住者の移動などが課題。
- このため、最先端技術の研究とICTなどの活用を図りながら、地域の課題や対応策等について、多くの関係者との調整や合意形成及び専門的見地からの検討が不可欠である。
- そこで、様々な関係者が参画する「南大沢スマートシティ協議会」を設立し、中長期的な取組について検討することを目的とする。

■ 今年度内容

- ① 庁内PTの開催・検討
▷南大沢スマートシティ実施計画(たたき台)の作成
- ② 協議会・部会の開催・検討
▷地域の課題、先端技術による対策の検討
- ③ 実証実験の実施
▷自動走行可能なモビリティ等の実証実験

■ 検討体制



■ 実証実験 (予定)

<モビリティ・実験(A): 高齢者等移動支援>



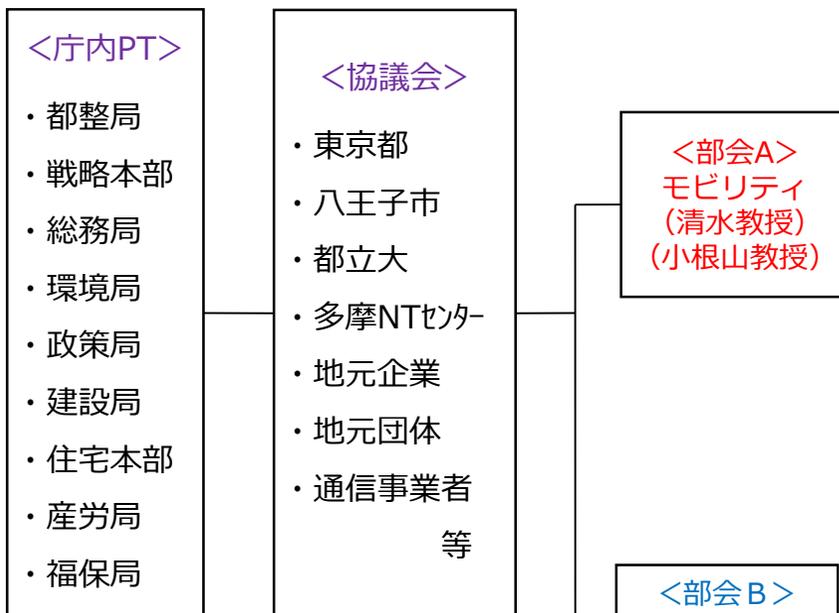
■ スケジュール

| ロードマップ 項目 | 令和2年度 | | | | | | | | | 令和3年度 以降 |
|------------------------------------|-------|-------------|----|-------------------|-----|------------|---------|----------|----|--------------------|
| | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
| ①スマートシティ 実施計画 庁内PT (5回予定) | | 計画(たたき台) 策定 | | 計画(たたき台)修正 | | 計画(たたき台)修正 | | 計画 策定 | | (必要に応じて 修正・見直し) |
| ②協議会 (3回予定) 部会 (計12回予定) | | | | 10/27設立: 第1回開催 | | | | | | 継続開催 |
| | | | | 部会A・B・C (3部会×4回) | | | | | | 継続開催 |
| ③実証実験 | | | | 関係者調整・準備 | | | 実証実験(A) | | | 実証実験 (B)・(C) |

- 【R3・4】
- 継続的な協議会・部会等の開催
 - 多面的な課題・対策の検討(範囲拡大・対策拡充等)
 - 多様な実証実験の実施・検証

【R5】社会実装・他地区展開

■ 検討組織



■ 部会の検討内容（例）

課題

- 丘陵地の高低移動の負担軽減
- 住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保
- 鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換、地区内の快適な移動

対策

- 自動車いす、電動シェアサイクル・キックボード等の導入
- 自動運転EV（小型モビリティ、タクシー、デマンドバス等）の導入
- MaaS、TDM（カーシェア、P&R）、ITS（道路交通・駐車場情報等）の推進

実験（移動支援サービス等）

課題

- 高齢者・身障者・子連れ主婦の買物負担の軽減
- 商業施設の賑わい創出・決済等のサービス向上

対策

- 荷物配送・追従ロボットの導入、アバターによる遠隔買物サービスの導入
- デジタルサイネージによる店舗情報の提供、無人販売・顔認証決済の導入

実験（買物支援・決済サービス等）

課題

- コロナ禍における三密回避のための分散化
- ICT進展によるワークスタイルの多様化・高度化

対策

- 5G・ビッグデータの活用・情報提供による混雑回避・最適な案内誘導
- 衛星・シェアオフィス、コワーキングスペースの設置、WEB環境整備

実験（5G・ICT・IOT・AI・ビッグデータ等）

■ 部会の検討概要（案）

| 回 | 内容 |
|-----|------------------|
| 第1回 | 地域の現況・課題の検討 |
| 第2回 | 課題を解決する先端技術の活用検討 |
| 第3回 | 先端技術の実証実験 |
| 第4回 | 実証実験の評価・今後の課題検討 |



南大沢スマートシティ協議会 メンバー

○東京都立大学

- ・清水教授（協議会長・モビリティ部会）
- ・岡村准教授（商業賑わい部会長）
- ・石川教授（情報・その他部会長）
- ・小根山教授（モビリティ部会アドバイザー）

○東京都

- ・都市整備局
- ・戦略政策情報推進本部
- ・総務局

○東京都立大学

○八王子市

- ・都市計画部
- ・産業振興部

○(株)多摩ニュータウン開発センター

○京王電鉄（株）

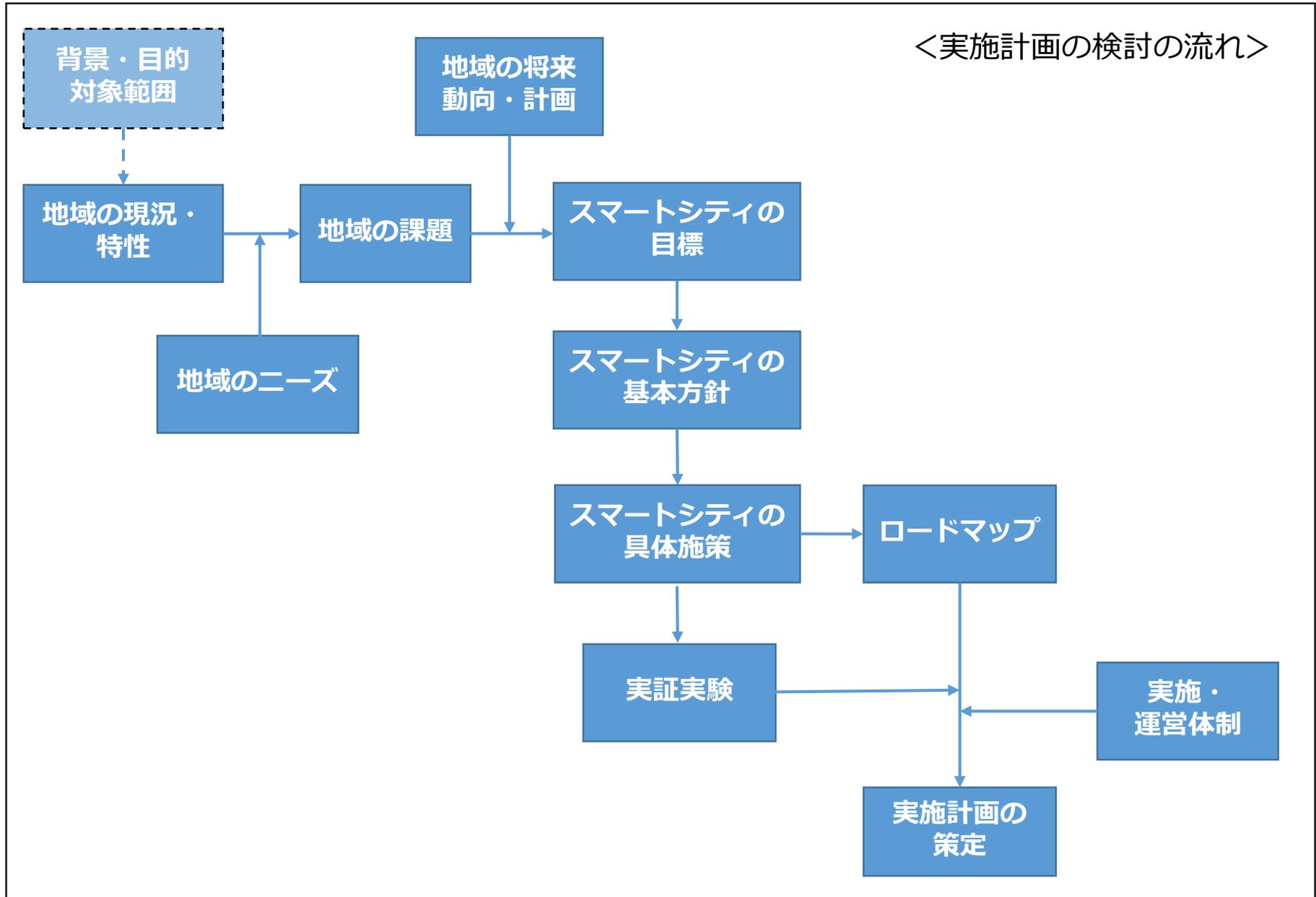
○三井不動産（株）

○(株)イトーヨーカ堂

○通信事業者

- ・NTTドコモ
- ・KDDI
- ・ソフトバンク
- ・NTT東日本
- ・JTOWER

○「元気な街」南大沢協力の会



5. 地域の課題（例）

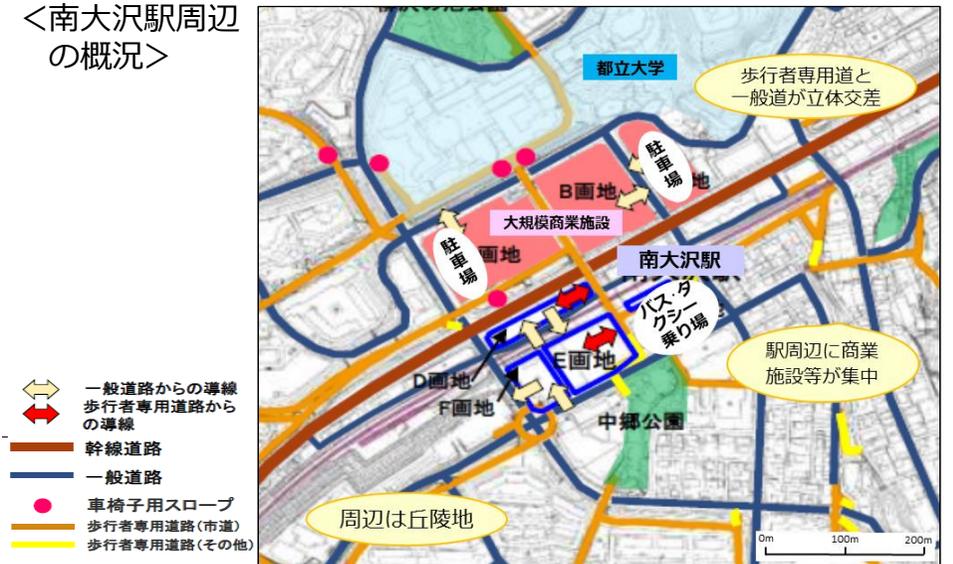
・主な課題として、「丘陵地の高齢移動の負担軽減」「住宅団地と駅・バス停までのアクセス交通の確保」「高齢者・身障者・子連れ者の買物負担の軽減」「コロナ禍での三密回避のための分散化」等が挙げられる。

■地区の主な課題 ※現地調査、関係者ヒアリング・意見交換、その他既存資料等により ※赤字は短期的対応と考えられる課題

| 分野 | 地区の課題 |
|------|---|
| スマート | 道路交通 ○丘陵地の高齢移動の負担軽減 ○住宅団地と駅・バス停とのアクセス交通の確保 ○鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換 ○地区内の円滑で快適な移動、駐車場利用の平準化 |
| | 情報 ○ICT進展による行政サービスの高度化 ○ICT活用による住民生活の向上、安全安心の確保 |
| | 環境 ○環境負荷の少ない生活や移動への社会的要請 ○エネルギーの効率的・安定的な利用 |
| | 物流 ○在宅者・ネット注文増加に対するサービス向上 ○貨物ドライバーの不足・高齢化 |
| 賑わい | 商業 ○高齢者・身障者・子連れ者の買物負担の軽減 ○商業施設の賑わい創出・決済等のサービス向上 |
| | 余暇 ○多様なニーズ・嗜好に合わせたサービスの提供 ○公園・レクリエーション施設へのアクセス向上 |
| 多様性 | 業務 ○ICT進展によるワークスタイルの多様化・高度化 ○通勤負担の軽減、移動時の混雑緩和 |
| | 防災 ○頻発する異常気象や地震等への迅速な対応 ○避難スペースやルートの整備及び最適案内 |

| 分野 | 地区の課題 |
|-----|--|
| 多様性 | 教育 ○通学負担の軽減、移動時の混雑緩和 ○ICT進展による学習スタイルの多様化・高度化 ○国際化の進展に伴う多言語対応・交流促進 |
| | 医療福祉 ○高齢者や障がい者等の通院負担の軽減 ○医療福祉施設へのアクセス交通の確保 ○ICT技術の進展による診察方法の高度化 |
| その他 | ○コロナ禍での三密回避のための分散化 |

<南大沢駅周辺の概況>



※出典) 「南大沢周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会 第1回資料」

6. スマートシティの目標・基本方針（例）

■目標（例）

※協議会・部会で検討中

学術研究（都立大学）とまちづくりが連携し、最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリア

■目標年次（例）

○短期：2022年度まで

○中期：～2030年度まで

○長期：～2040年度まで

■スマートシティの基本方針（例）

スマートなまち

（先端技術活用や産学公連携により、持続可能な環境が創出されるまち）

にぎわいのあるまち

（多機能が駅前に集積し、歩きやすく、にぎわいが生まれるまち）

多様性のあるまち

（国内外の多様な人々が集い交流し、安心・快適に暮らせるまち）

■先端技術の活用の方向性（例）

○高低差移動負担の軽減、住宅地のアクセス向上による交流の促進
○地区内交通の円滑化や回遊性の向上による地域活動の活性化

○新技術の活用による地域の最新情報の発信、生活・賑わいの創出
○地区内の物流効率化による商業活動の活性化、生活利便性の向上

○環境負荷のさらなる低減、自然環境と調和した地域の拠点づくり
○職住学商の近接による日常活動に応じた地域エネルギーの効率化

○新たな働き方や多様なライフスタイルを支える職住学の環境づくり
○新技術を活用した災害に強いまちづくりや地域コミュニティの形成

○都立大学を中心とした新たな技術開発やライフスタイルの創造
○地域内外の関係者が集い・交流する体制や仕組みの構築

7. スマートシティの具体施策（例）①（一覧）

※赤字は短期的取組と考えられる施策

| 分野 | 先端技術による具体施策（例） | 主な対象（例） |
|------|--|-------------------------------|
| スマート | 道路交通 ○自動車いす、電動シェアサイクル・キックボード等の導入 ○自動運転EV（路線・循環・デマンドバス、タクシー、小型モビリティ等）の運行 ○MaaS、TDM（カーシェア、P&R等）、ITS（道路交通・駐車場情報等）の推進、地域総合交通管理システムの構築 | □住民・来街者（高齢者・身障者、ビジネスマン、家族連れ等） |
| | 情報 ○5Gアンテナ、スマートポールの導入、AI・IoT・3Dマップの活用 ○地域ICTネットワークの構築 | □住民・来街者（全般） |
| | 環境 ○再生可能エネルギー（太陽光等）の導入、地域エネルギーマネジメントシステムの構築 ○EV、燃料電池車、グリーンスローモビリティの導入 | □住民・来街者（全般） |
| | 物流 ○無人宅配ロボット・宅配BOXの導入、ドローン配送 ○貨客混載（乗客+貨物）・共同集配サービスの推進 | □住民（全般） |
| 賑わい | 商業 ○荷物配送・追従ロボットの導入、アバターによる遠隔買物サービスの導入 ○デジタルサイネージによる店舗情報の提供、無人販売・顔認証決済の導入 | □住民・来街者（高齢者、身障者、子連れ主婦・家族連れ等） |
| | 余暇 ○OAR・VRの自然・ツーリズム・スポーツ体験 ○公園・レクリエーション施設へのアクセス向上 | □住民・来街者（全般） |
| 多様性 | 業務 ○サテライト・シェアオフィス、コワーキングスペースの設置、WEB会議の環境整備 ○OTDM（テレワーク・時差出勤）の推進 | □住民・域外居住者（ビジネスマン等） |
| | 教育 ○ICT教育・研究、遠隔授業の導入 ○留学生等のコミュニティスペースの整備・多言語対応 | □住民・域外居住者（学生等） |
| | 医療福祉 ○遠隔診療の導入 ○医療福祉施設へのアクセス手段の確保・利便性向上 | □住民・域外居住者・来街者（高齢者・身障者等） |
| | 防災 ○リアルタイム災害情報の提供・多言語対応 ○防災公園・避難ルートの整備、ビックデータ解析による最適避難・誘導 | □住民（全般） |
| | その他 ○ビックデータの活用・情報提供による混雑回避・最適な案内誘導・見守り | □住民・来街者（全般） |

8. スマートシティの具体施策（例）③（全体イメージ図）

※本図はあくまで将来イメージの一例である

